

2022年8月18日
マクセル株式会社

トラックやバス、建設機械向けの Head-Up Display を開発

マクセル独自の光学技術によりさらなる小型化^{*1}を実現



トラックやバス、建設機械向け Head-Up Display の表示イメージ(左)と拡大図(右)

マクセル株式会社(取締役社長:中村 啓次/以下、マクセル)は、自由曲面光学技術をさらに進化させることで、これまで商用車に搭載するうえで課題であった地面に対し垂直に近いフロントガラスへの対応と小型化を実現し、トラック、バス、建設機械などにも搭載可能な Head-Up Display(以下、T-HUD^{*2})を開発しました。

■T-HUD 概要仕様

項目	仕様
視野角(H×V)[deg]	6.4×2.4
セット容積 ^{*3} [L]	約 4.0
虚像距離[m]	約 2.0

マクセルでは、2021年4月より乗用車向けの AR-HUD^{*4}を量産しており、AR-HUD で培った光学技術、高信頼性技術(太陽光による耐熱技術など)および実績をベースにトラックなどに搭載可能な T-HUD を開発してきました。

T-HUD は光学ユニットのレイアウトを全面的に見直し、自由曲面光学技術を応用した商用車専用のレイアウトにすることで地面に対して垂直に近いフロントガラスへの対応を実現しました。また、虚像表示位置も長時間運転する商用車向けに再定義しました。

商用車は乗用車に比べ車幅が広いと、周辺情報を確認する際の視点移動やミラーなどで確認できない死角が多いと言われています。今回開発した T-HUD は、従来の HUD に対して、ナビゲーション、メーターに加え周辺情報を確認する際の視点移動低減、また ADAS^{*5}システムと連携し死角の情報を T-HUD に表示させることで、さらなる安全性の向上が期待されます。

HUD のラインアップに今回開発した T-HUD が加わることで、乗用車、設置スペースが小さい小型車やスポーツ車、商用車向けまで対応が可能となりました。

マクセルは今後も、光と映像技術で新しい価値を創出し社会の安心安全に貢献していきます。

- *1 小型化:2021 年 4 月より量産している乗用車向けの AR-HUD 比 38%
- *2 T-HUD:トラック、バス、建設機械などにも搭載可能な Head-Up Display
- *3 セット容積:車両形状によりセット容積数値は変わります。
- *4 AR-HUD:Augmented Reality(拡張現実) Head-Up Display
- *5 ADAS:Advanced Driver Assistance Systems。先進運転支援システム

■ HUD の製品ページ

https://biz.maxell.com/ja/display_equipment/ais_index.html

■ 商標

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

■ 製品に関するお問い合わせ先

マクセル株式会社 新事業統括本部

お問い合わせフォーム:

https://www.maxell.co.jp/inquiry/maxell/ja/form.jsp?f=biz&q=hud_m_ja_biz

以上

ニュースリリース、お知らせに記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、
発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日時点のものです。
予告なしに変更され、発表日と情報が異なる場合もありますので、あらかじめ
ご了承ください。
